

中学最後の大会と新たな挑戦



千葉明德中学校
冨田 希咲

新型コロナウイルスの影響で総体が中止になり、私は中学生最後の大会で自分の実力を発揮できず、悔しい思いをしていました。大きな目標を失ったまま、中学校の部活動が終わってしまうこと、それは私だけでなく、他の競技でも、みな同じ状況で仕方のないことだと思っていました。

そんな時、今回の学年別大会が開催されることになり、自分の中で目標ができました。それは、中学生としての最後の大会で、自分の実力を精一杯出して後悔をしないようにすることです。私は中学校ではダブルスを中心にやってきたため、シングルスには苦手意識がありました。しかし、自分に足りないことや苦手なことに向き合い練習を重ね、得意な技を試合で活かすためには何をしたら良いのかなどを考えてプレーしたり、相手の弱点を見つけプレーを変えたりすることで、少しずつできることが増え、以前よりも自信がもてるようになりました。

大会当日、最後の大会という意識と大会ならではの雰囲気にとっても緊張していました。しかし、これまで関わってくださった先輩や先生方、同級生や後輩などたくさんの方が応援してくれたおかげで緊張がほぐれ、思い切ってプレーすることができました。結果は残せませんでしたでしたが、自分の力を出し切れたので、良かったです。

この大会での貴重な経験があったからこそ、自分の中で中学校の部活動に一区切りをつけることができ、高校でもバドミントンを頑張ろうという気持ちが固まりました。良い結果を残せるよう、今後も練習に励み、仲間と共に目標に向かって挑戦し続けたいと思います。